

Asia Indicators

発表日: 2025年2月21日(金)

ニュージーランドの1月輸出は大きく底入れ(Asia Weekly(2/17~2/21))

～春節の影響はあるも台湾の輸出受注は一進一退の様相をみせる展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/17(月)	(シンガポール)1月非石油輸出(前年比)	▲2.1%	▲1.1%	+9.0%
	(タイ)10-12月実質GDP(前年比)	+3.2%	+3.9%	+3.0%
	(フィリピン)12月海外送金(前年比)	+3.0%	--	+3.3%
2/18(火)	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.10%	4.10%	4.35%
	(香港)1月失業率(季調済)	3.1%	--	3.1%
2/19(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	3.75%	3.75%	4.25%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	5.75%	5.75%	5.75%
2/20(木)	(オーストラリア)1月失業率(季調済)	4.1%	4.1%	4.0%
	(マレーシア)1月輸出(前年比)	+0.3%	+5.0%	+16.9%
	1月輸入(前年比)	+6.2%	+2.5%	+11.9%
	(台湾)1月輸出受注(前年比)	▲3.0%	▲1.8%	+20.8%
	(香港)1月消費者物価(前年比)	+2.0%	--	+1.4%
2/21(金)	(ニュージーランド)1月輸出(億NZドル)	61.9	--	66.7
	1月輸入(億NZドル)	66.8	--	65.8
	(マレーシア)1月消費者物価(前年比)	+1.7%	+1.7%	+1.7%

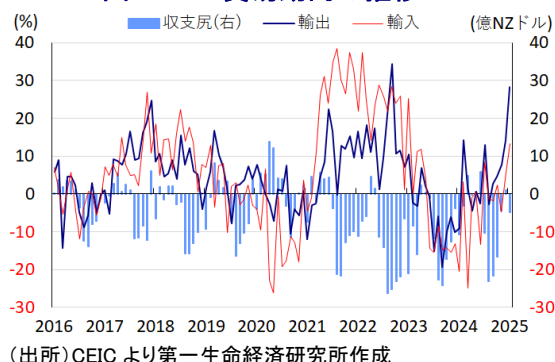
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド]～輸出入ともに底入れの動きが確認される一方、貿易収支は2ヶ月ぶりの赤字に転じる～

21日に発表された1月の輸出額は前年同月比+28.3%となり、前月(同+14.1%)から伸びが加速している。前月比も+10.8%と5ヶ月連続で拡大するとともに、前月(同+2.0%)からそのペースも加速するなど底入れの動きを強めている。財別では、原油の輸出額に大きく下押し圧力が掛かるとともに、果物や水産物の輸出も鈍化する動きがみられるものの、主力の輸出財である乳製品の輸出が大きく押し上げられるとともに、食肉や木材・木製品のほか、機械製品関連など幅広い分野で輸出は堅調な推移をみせている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けは底堅い動きをみせているほか、ASEANをはじめとするアジア新興国向けは堅調な推移をみせるとともに、米国向けや日本向け、EU向けなど幅広い地域向けで拡大する動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+13.4%となり、前月(同+5.8%)から伸びが加速している。前月比も+2.4%と3ヶ月連続で拡大するとともに、前月(同+1.2%)から伸びも加速するなど輸出同様に底入れの動きを強めている。財別では、原油や石油製品関連のほか、

機械製品関連や電気機械関連、縫製品関連など幅広い分野で拡大するなど底堅い動きをみせている。結果、貿易収支は▲4.86億NZドルと前月（+0.94億NZドル）から2ヶ月ぶりの赤字に転じている。

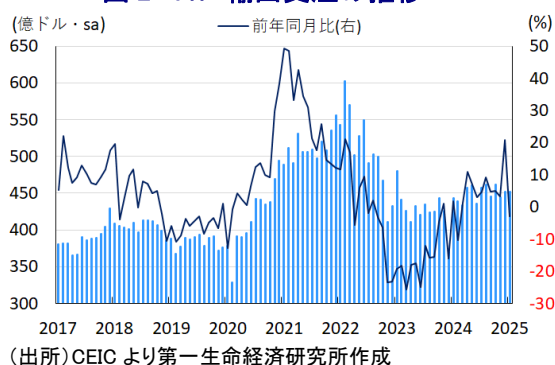
図1 NZ 貿易動向の推移



[台湾]～春節の時期のズレを考慮する必要はあるものの、輸出受注の動きは一進一退の動きをみせる展開～

20日に発表された1月の輸出受注額は前年同月比▲3.0%となり、前月（同+20.8%）から11か月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。今年は前年に比べて春節（旧正月）連休の時期が大きく前倒した影響を考慮する必要があるなか、前月比も▲0.10%と前月（同+1.79%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちしている様子がうかがえる。財別では、輸送用機械関連や鉱物資源関連などで底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連を中心に頭打ちの動きが確認されるとともに、化学製品関連など素材・部材に関連した分野などでも頭打ちする動きがみられる。国・地域別では、ASEANなどアジア新興国向けは堅調な動きをみせる一方、最大の輸出相手である中国本土向けが大きく下振れしているほか、米国向けやEU向け、日本向けなどが鈍化していることも受注全体の重石となっている。

図2 TW 輸出受注の推移



[マレーシア]～中国経済を巡る不透明感に加え、世界的な貿易環境への不透明感も輸出の重石となる動き～

20日に発表された1月の輸出額は前年同月比+0.3%となり、前月（同+16.9%）から伸びが鈍化している。前月比も▲1.9%と前月（同+5.8%）から4ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きを強めてきた流れに一服感が出ている。財別では、原油関連の輸出に大きく下押し圧力が掛かったほか、パーム油など資源関連の輸出が軒並み鈍化している上、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部

品関連など製造業関連の輸出も頭打ちするなど、世界的な貿易環境を巡る不透明感の高まりが足かせとなっている様子が見え始める。国・地域別でも、EU向けやASEANなど周辺国向けに底堅い動きがみられるものの、米国向けが頭打ちしているほか、中国向けに大きく下押し圧力が掛かったことが重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+6.2%となり、前月（同+11.9%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+2.0%と前月（同+8.9%）から2ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きが続いている。輸出を巡る環境に不透明感が高まるなかで中間財関連の輸出に下押し圧力が掛かる一方、資本財関連や消費財関連の輸入が堅調な推移をみせていることが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+36.34億リングと前月（+191.34億リング）から黒字幅が縮小している。

21日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+1.7%となり、前月（同+1.7%）から2ヶ月連続の横這いで推移している。前月比は+0.15%と前月（同+0.08%）から上昇ペースは加速しているものの、生鮮品をはじめとする食料品物価の上昇ペースは鈍化しているほか、エネルギー価格も落ち着いた推移をみせるなど、生活必需品を巡る物価は比較的安定した動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.6%）から伸びが加速しており、昨年半ば以降は緩やかに頭打ちする展開が続いた流れに変化の兆しがうかがえる。前月比も+0.46%と前月（同▲0.15%）から4ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格が落ち着いた推移をみせるなかで輸送コストも安定している上、通貨リング相場も周辺国通貨に比べて安定するなかで輸入物価への影響も小幅に留まるなかで幅広く財価格は落ち着いている一方、雇用回復の動きも追い風にサービス物価に上昇圧力が掛かる動きがみられるなど、緩やかにインフレ圧力が強まる様子が見え始める。

図3 MY 貿易動向の推移

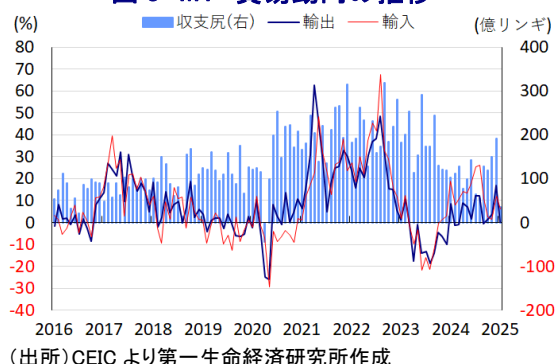
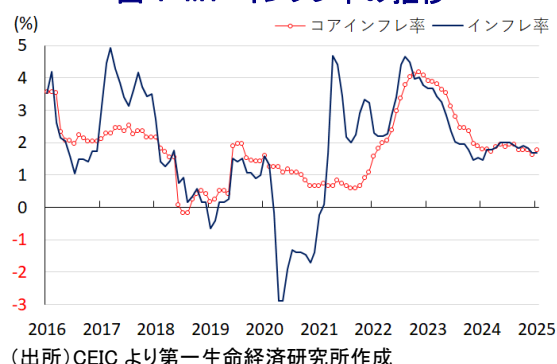


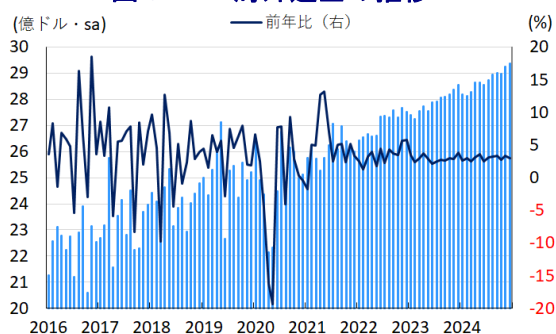
図4 MY インフレ率の推移



[フィリピン]～米国などからの移民送金は堅調な推移が続き、家計消費など内需の下支えが期待される展開～

17日に発表された12月の海外移民による送金流入額は前年同月比+3.0%となり、前月（同+3.3%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。なお、当月は国際金融市場における通貨ペソ安の動きに一服感が出るなど、ペソ建換算値に下押し圧力が掛かりやすい状況にあるものの、ペソ建ベースでも前月比はプラスで推移していると試算され、家計消費をはじめとする内需を下支えすることが期待される。国・地域別では、中東地域やオセアニア地域からの流入に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、全体の4割強を占める米国からの流入が引き続き堅調な動きをみせているほか、日本や香港、シンガポールなどアジア地域からの流入も底堅く推移している。

図5 PH 海外送金の推移

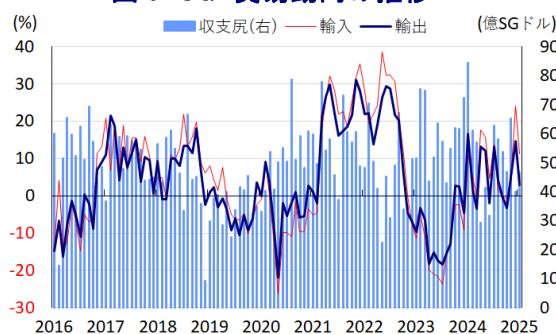


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季節調整値は当社試算

[シンガポール]～主力の輸出財を中心とする輸出で底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる～

17日に発表された1月の非石油輸出額は前年同月比▲2.1%となり、前月(同+9.0%)から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲3.26%と前月(同+1.33%)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である電動バルブをはじめとする電気機械関連の輸出に下押し圧力が掛かるとともに、半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連、化学製品関連など幅広い分野で輸出が鈍化している様子がうかがえる。なお、原油関連を併せた総輸出額も前年同月比+3.0%となり、前月(同+14.6%)から伸びが鈍化している。前月比も▲2.0%と前月(同+3.1%)から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ている。国・地域別では、ASEANをはじめとする周辺のアジア新興国向けや米国向けに底堅い動きがみられるものの、中国向けのほか、EU向けや日本向けなどで鈍化する動きが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+11.2%となり、前月(同+24.0%)から伸びが鈍化している。前月比も▲0.6%と前月(同+7.0%)から5ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きに一服感が出ている。主力の輸出財を中心とする輸出に頭打ちの動きが出ていることを反映して、素材、部材関連を中心とする輸入が鈍化するほか、商品市況の調整の動きなども輸入額の重石となっている。結果、貿易収支は+46.61億SGドルと前月(+40.07億SGドル)から黒字幅が拡大している。

図6 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～春節連休の時期のズレによる影響も重なり、1月のインフレ率は4ヶ月ぶりの伸びに加速している～

18日に発表された1月の失業率(季調済)は3.1%となり、前月(3.1%)から4ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比+0.8万人と前月(同+0.8万人)から横這いで推移しているもの

の、ここ数ヶ月は拡大傾向が続くなど底入れの動きを強めている様子が見えてくる。一方で雇用者数は前年同月比+2.0万人と前月（同+0.5万人）から拡大ペースが加速しており、金融関連や不動産関連など一部サービス業で雇用は底入れの動きを強める流れが続く一方、小売関連や観光関連など幅広いサービス業で雇用調整圧力がくすぶるなど、サービス業の間でも跛行色が強まる動きがみられる。これら以外でも、建設業の雇用に底堅い動きがみられるものの、製造業の雇用は調整の動きが続いており、中国本土景気を巡る不透明感や米中摩擦の懸念などが雇用の重石になっている様子が見えてくる。

20日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+2.0%となり、前月（同+1.4%）から加速して4ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.46%と前月（同+0.09%）から上昇ペースが加速しており、今年は春節（旧正月）連休の時期が前年に比べて大きく前倒しされていることも重なり、食料品やエネルギーなど生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、香港においては2007年以降に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が断続的に実施されており、その影響を除いたベースでも前年同月比+1.6%と前月（同+1.3%）から加速して14ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.28%と前月（同+0.09%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かっているにも拘らず、財価格は幅広く下振れしているものの、春節連休の時期も影響してサービス物価に上昇圧力が掛かったことが物価全体を押し上げている。

図7 HK 雇用環境の推移

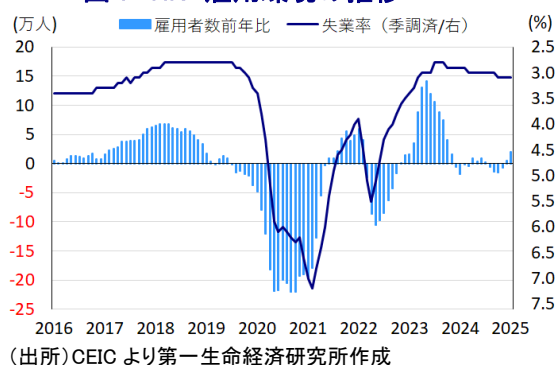
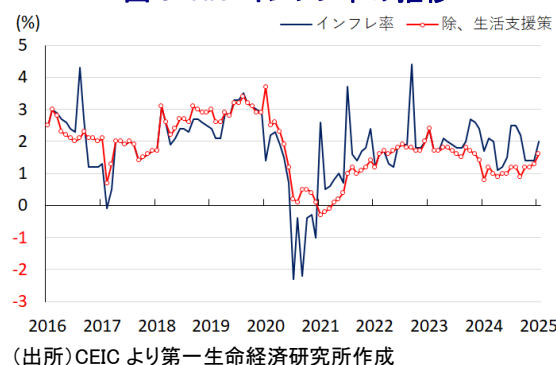


図8 HK インフレ率の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。